

【2026 年度/専門科目領域/専門科目群/人間コミュニケーション学科】

科目名	ナンバリング	区分 (必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等	
学習・言語心理学		必修	2	1	後期 (集中)	
担当教員	研究室	電子メール ID		オフィスアワー		
前川 真奈美	B304	manami.maekawa		木曜日 12:10~13:00		
授業の目的・概要	<p><目的>学習心理学および言語心理学の基礎知識を習得し、日常生活における様々な行動や現象のしくみについて、心理学の観点から理解するとともに、それらを自分自身や他者への関わりに応用できる力を養うことを目的とする。</p> <p><概要>本授業では、学習心理学および言語心理学の基礎的内容について、実験や体験的な活動を取り入れながら扱う。学習心理学の領域では、行動が変化するしくみや動機づけについて取り上げ、言語心理学の領域では、言語の習得過程や言語に関わる障害について扱う。各回では、簡単な実験や演習を実施し、その結果をもとに理論の理解を深めるとともに、日常生活への応用について考察する。</p>					
授業形式・方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面授業 <input type="checkbox"/> 遠隔授業(双方向型) <input type="checkbox"/> 遠隔授業(自主学习) <input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技 <input type="checkbox"/> PBL <input type="checkbox"/> 反転授業 <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> その他 () <input checked="" type="checkbox"/> ディスカッション・デベート <input type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク					
学習上の助言	実験や体験的な活動を通して、自分なりの気づきを得ることを重視する。受け身的に参加するのではなく、主体的に考え、積極的に取り組んでほしい。 講義内容に関する疑問が生じた場合にはそのままにせず、講義中の質問やリアクションペーパー、オフィスアワー等を活用し、理解を深めてほしい。					
教科書	教科書は指定しない。必要に応じて資料を配付する。					
参考書	学習・言語心理学 (公認心理師の基本を学ぶテキスト 8) /監:川畑直人、大島剛、郷式徹/編著:郷式徹、西垣順子/ミネルヴァ書房/2019年					
外部教材	なし					
学生が達成すべき行動目標				関連卒業認定・学位授与方針		
①	学習に関する基本的なしくみを理解し、身近な例を用いて説明できる。			HC (5)		
②	日常生活における行動や現象を心理学の視点から捉え、その理由を考察できる。			HC (5)		
③	学んだ知識をもとに、自分や他者の行動をより良くする方法を検討できる。			HC (1)、(4)、(5)		
④	言語の習得やコミュニケーションのしくみを理解し、適切な関わり方について自分の考えを述べることができる。			HC (1)、(5)、(6)		
⑤						
⑥						
授 業 計 画						
回	学習内容等	授業の方法	学習課題・学習時間 (時間)			
1	オリエンテーション 学習とは何か?	講義・演習	これまでの自分の体験を振り返り、講義内容と合致する現象を見つける。 実験を通して体験したこと・感じたことをもとに講義内容を整理し、リアクションペーパーを提出する。			
2	馴化と鋭敏化について学ぶ。 -実験「飽きる?ハマる?その分かれ道」	講義・演習				2
3	古典的条件づけについて学ぶ。 -実験「第一印象は〇〇で変わる?」	講義・演習				4
4	オペラント条件づけについて学ぶ①。 -実験「行動するかは〇〇次第?」	講義・演習				4
5	オペラント条件づけについて学ぶ②。 -実験「やめられない理由、それは…」	講義・演習				4
6	オペラント条件づけについて学ぶ③。 -実験「人を思い通りに動かせる?」	講義・演習				4
7	古典的条件づけ&オペラント条件づけについて学ぶ。 -実験「やめさせるって、こんなに難しい?」	講義・演習				4
8	観察学習について学ぶ。 -実験「バズる行動はどう広がる?」	講義・演習				4
9	技能学習について学ぶ。 -実験「教え方で上達スピードは変わる?」	講義・演習				4
10	古典的条件づけの応用について学ぶ。 -実験「苦手ってどうやったら減らせる?」	講義・演習				4
11	オペラント条件づけの応用について学ぶ①。 -実験「やる気は“しくみ”で作れる?」	講義・演習				4
12	オペラント条件づけの応用について学ぶ②。 -実験「人の行動を変えるプランを作ろう!」	講義・演習				4
13	動機づけについて学ぶ。 -実験「ごほうびをもらおうと、やる気は上がる?」	講義・演習				4

【2026 年度/専門科目領域/専門科目群/人間コミュニケーション学科】

14	言語の習得・発達について学ぶ。 －実験「言葉はどうやって身につく？どうすれば伝わる？」	講義・演習		4			
15	学習の総括を行う。	講義・演習		6			
試							
達成度評価							
総合評価割合 (%)		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	合計
		0	0	0	25	75	100
総合力指標	知識・技術力	0	0	0	5	5	10
	思考・推論・創造する力	0	0	0	10	25	35
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	0	0
	発表・表現伝達する力	0	0	0	0	5	5
	コミュニケーション力	0	0	0	0	0	0
	取組みの姿勢・意欲	0	0	0	0	20	20
	問題を発見・解決する力	0	0	0	10	20	30
評価のポイント							
評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点			フィードバックの方法		
試験	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
レポート	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
成果発表	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
ポートフォリオ	①	✓	学期末にポートフォリオ課題の提出を求める。 第1回に設定した「自分の行動に関する課題」について、授業で扱った内容を踏まえて改善プランを再検討し、その変化および考察をまとめる。 評価にあたっては、授業内容の理解、改善プランの具体性、理論の適切な活用、自己の変化に関する考察の深さを総合的に考慮する。			コメントと評価点を付して返却する。	
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
	⑤						
	⑥						
その他	①	✓	各回講義後に、Teams の課題機能を用いてリアクションペーパーの提出を求める。講義内容に関する考察や気づきが具体的に記述されているかを評価する（全15回、各5点満点で計75点満点）。			締め切り後、評価点を付して返却する。 リアクションペーパーで受けた質問については、Teams の投稿で、全体に向けてフィードバックを行う。	
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
	⑤						
	⑥						
備 考							
他担当教員	なし						
教員の実務経験	公認心理師資格を有し、2年の心理査定業務の経験がある。						
実践的授業の内容	専門性とこれまでの経験をもとに、受講生がイメージしやすい具体例や実践的な情報を交えながら授業を進める。						
その他	自らの考えを記述する課題（ポートフォリオ課題、リアクションペーパー等）において、生成 AI の出力結果を利用することを禁止する。これに反した場合は評価の対象外とする。						